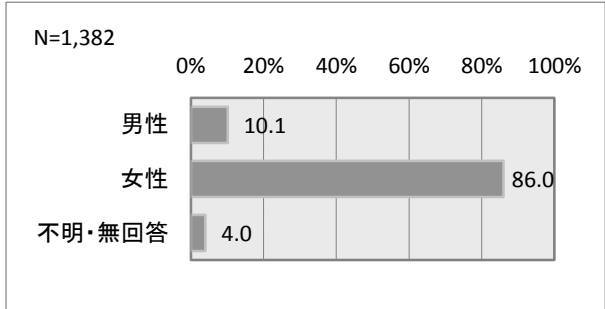


## 2 調査結果（単純集計）

### 1 お子さんと保護者の状況について

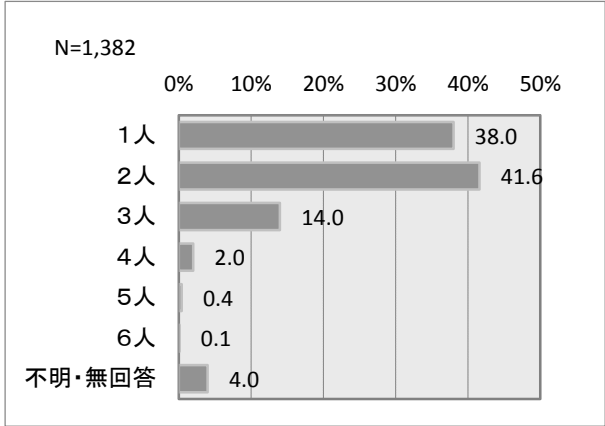
#### （1）性別

回答者の性別についてみると、「女性」が86.0%、「男性」の10.1%と比較して高くなっています。  
平成10年（1998年）実施の『大津市子育てに関する意識調査』では「母親」が86.9%、「父親」が12.2%となっており、依然として女性の子育てへの関わりが強いことがうかがえます。



#### （2）お子さんの人数

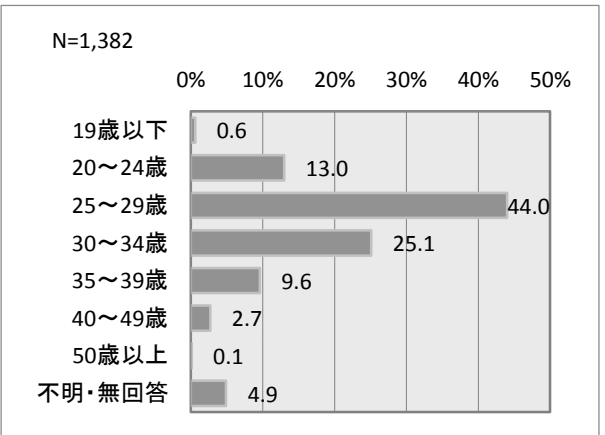
お子さんの人数は、「2人」が41.6%、次いで「1人」が38.0%となっています。また、回答者の1家族あたりの平均子ども人数は1.8人となっています。



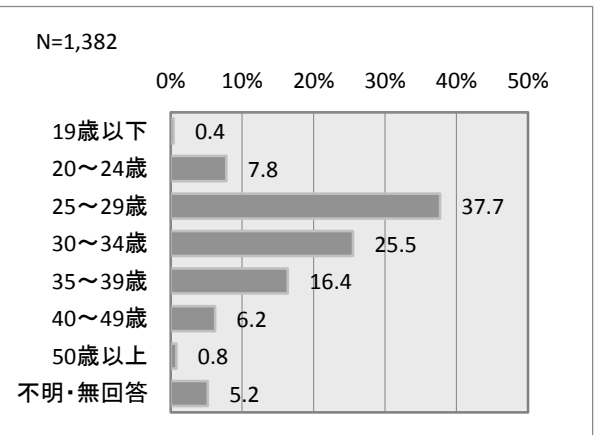
#### （2-1）宛名のお子さんの父母の結婚年齢 / 平成27年7月1日現在のお子さんの年齢と、そのお子さんが生まれた時の父母の年齢

父母の結婚年齢についてみると、父母ともに「25～29歳」がそれぞれ約4割で最も高く、次いで「30～34歳」がそれぞれ約3割となっています。平均結婚年齢は、母親が29.0歳、父親が30.9歳となっています。

##### 母親の結婚年齢



##### 父親の結婚年齢



第1子から第5子出生時までの母親と父親の平均年齢は、以下のようになっています。

第1子出生時の母親と父親の平均年齢は、母親が30.1歳、父親が32.0歳となっています。

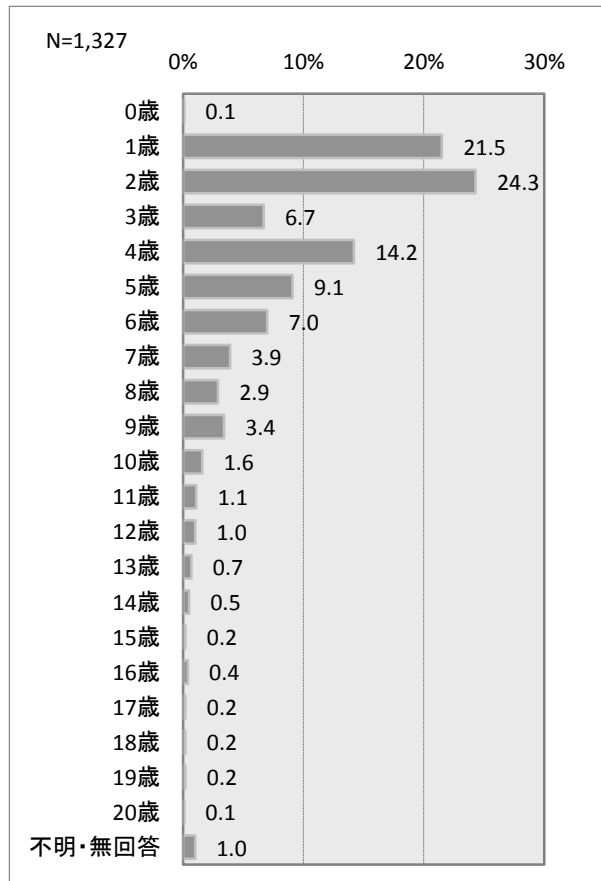
第2子出生時の母親と父親の平均年齢は、母親が32.3歳、父親が34.0歳となっています。

第3子出生時の母親と父親の平均年齢は、母親が34.1歳、父親が35.7歳となっています。

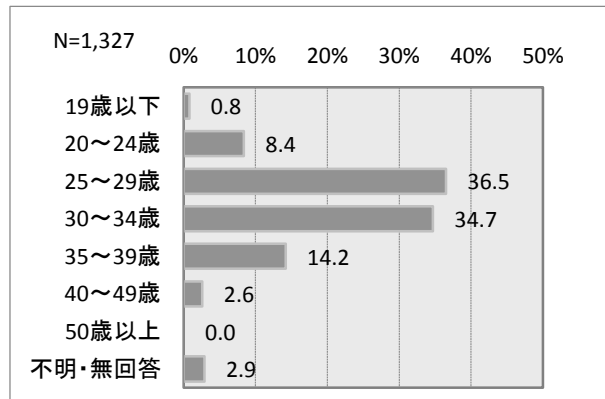
第4子出生時の母親と父親の平均年齢は、母親が33.9歳、父親が36.2歳となっています。

第5子出生時の母親と父親の平均年齢は、母親が30.0歳、父親が35.6歳となっています。

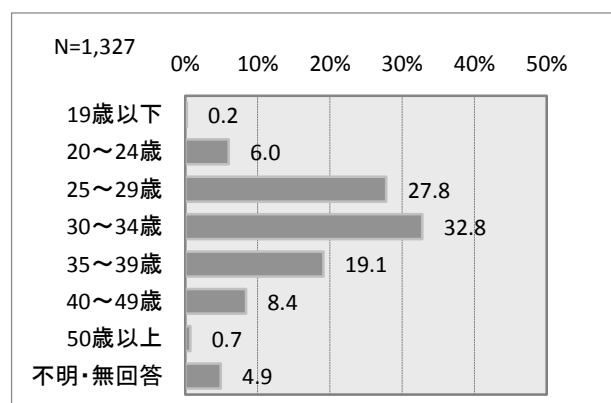
### 第1子の年齢（平成27年7月1日現在）



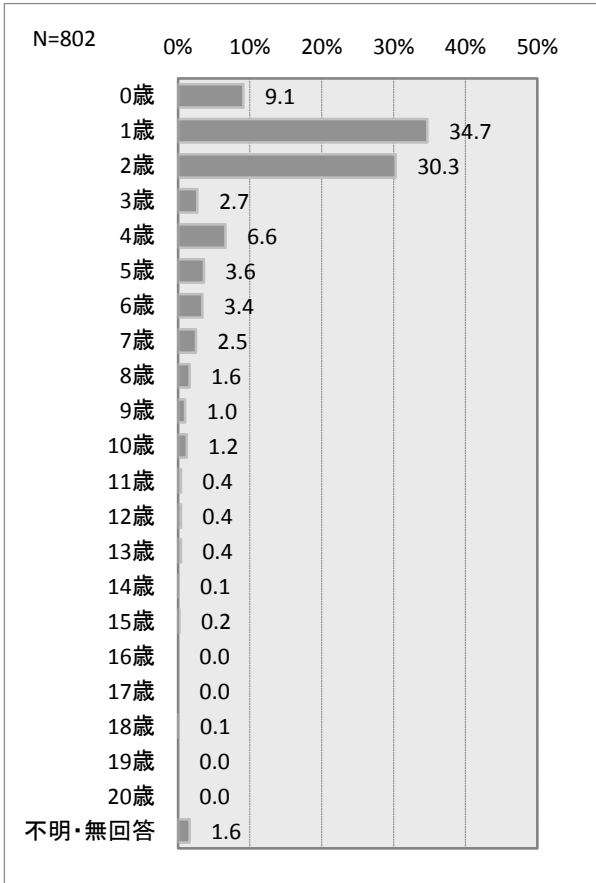
### 第1子が生まれた当時の母親の年齢



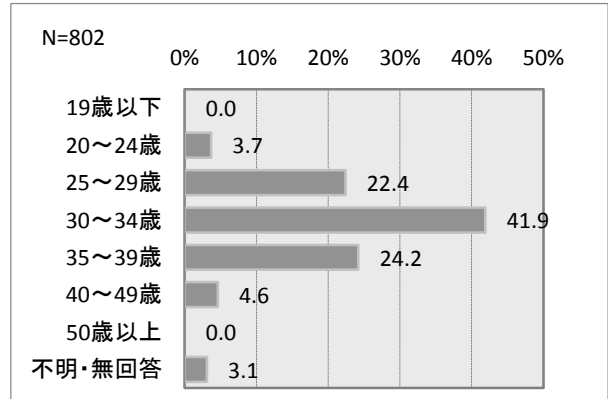
### 第1子が生まれた当時の父親の年齢



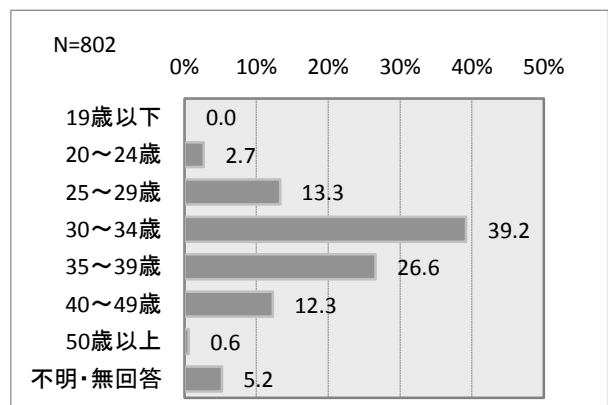
第2子の年齢（平成27年7月1日現在）



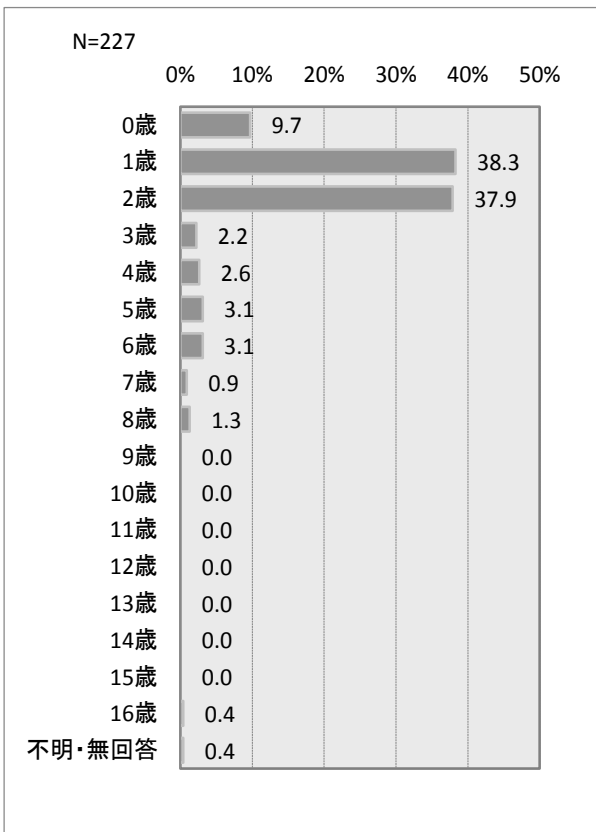
第2子が生まれた当時の母親の年齢



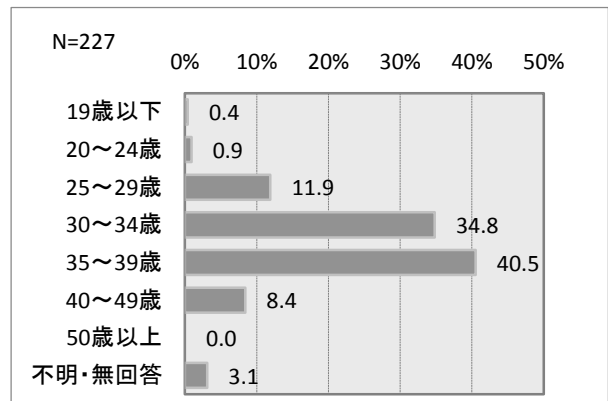
第2子が生まれた当時の父親の年齢



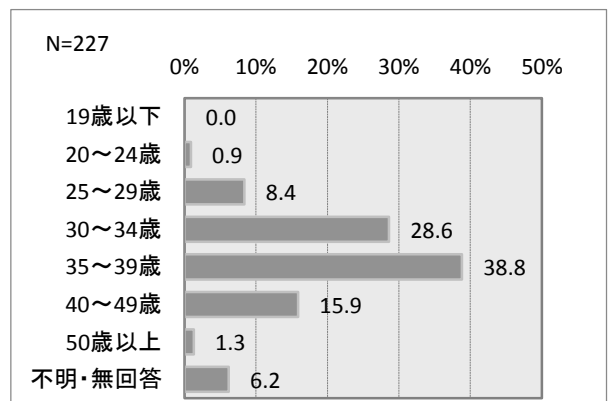
第3子の年齢（平成27年7月1日現在）



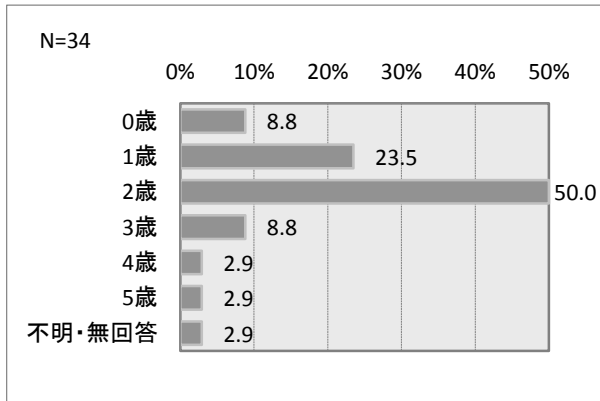
第3子が生まれた当時の母親の年齢



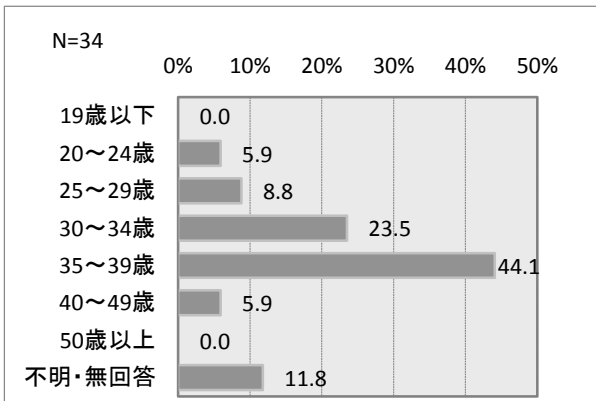
第3子が生まれた当時の父親の年齢



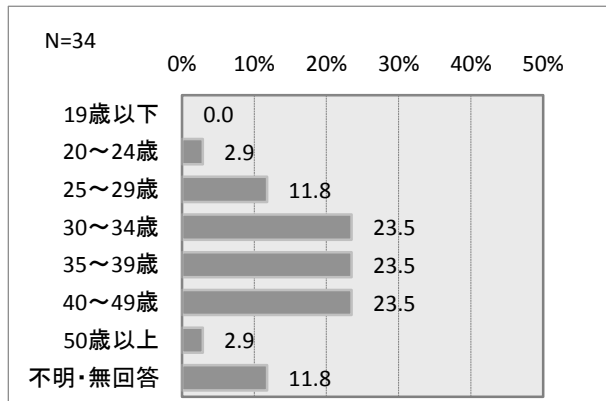
### 第4子の年齢（平成27年7月1日現在）



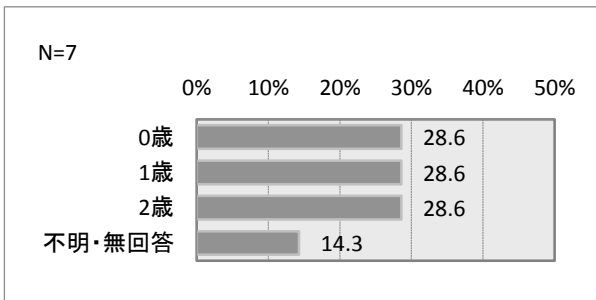
### 第4子が生まれた当時の母親の年齢



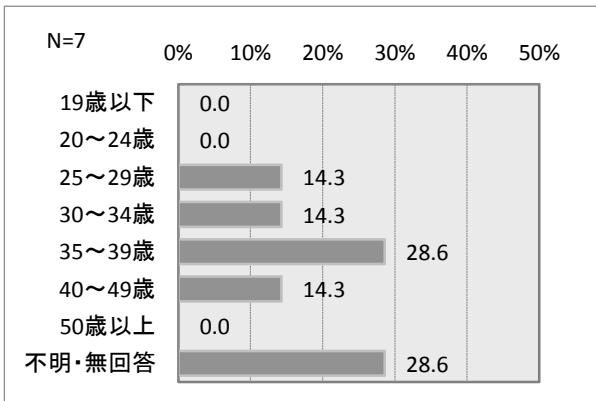
### 第4子が生まれた当時の父親の年齢



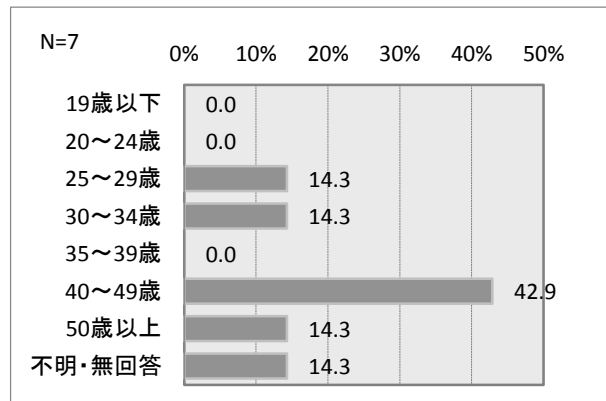
### 第5子の年齢（平成27年7月1日現在）



### 第5子が生まれた当時の母親の年齢

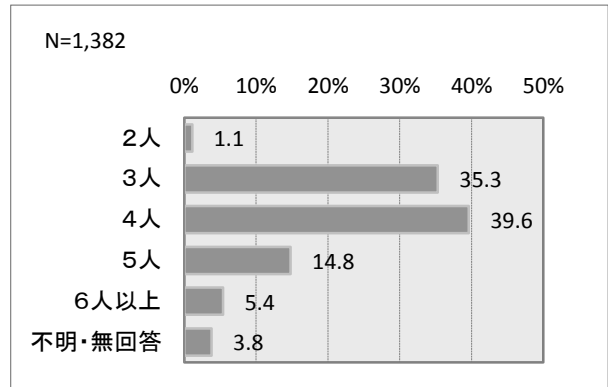


### 第5子が生まれた当時の父親の年齢



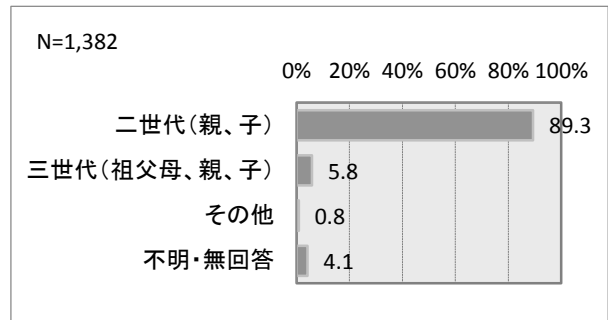
### (3) 同居している人数

世帯人数についてみると、「4人」が39.6%と最も高く、次いで「3人」が35.3%となっています。



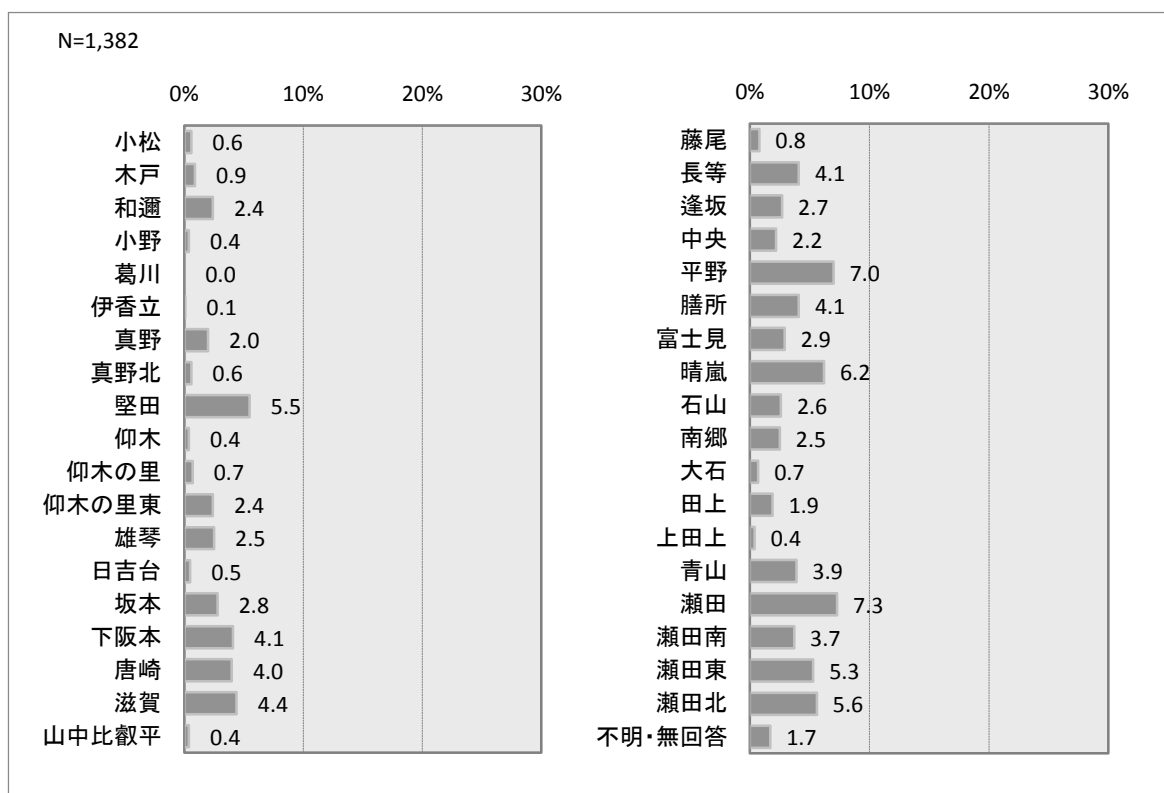
### (4) 世帯構成（お子さんからみた関係）

世帯構成についてみると、「二世代（親、子）」が89.3%と最も高く、また「三世代（祖父母、親、子）」が5.8%となっています。

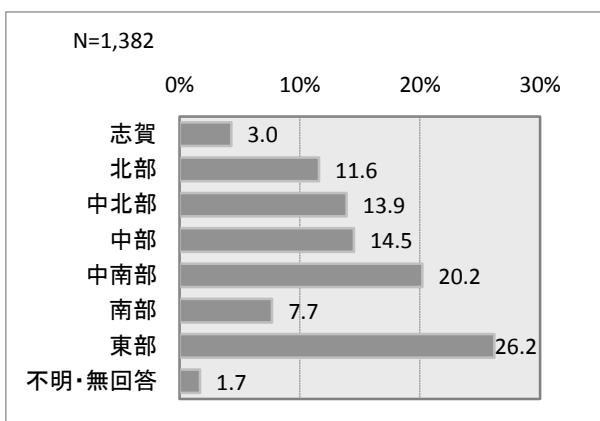


### (5) 居住学区

居住地を学区別にみると、「瀬田」や「平野」で比較的多くなっています。また、保健福祉ブロック別にみると、「東部」が26.2%と最も多く、次いで「中南部」が20.2%、「中部」が14.5%となっています。



### ◎福祉保健ブロック別



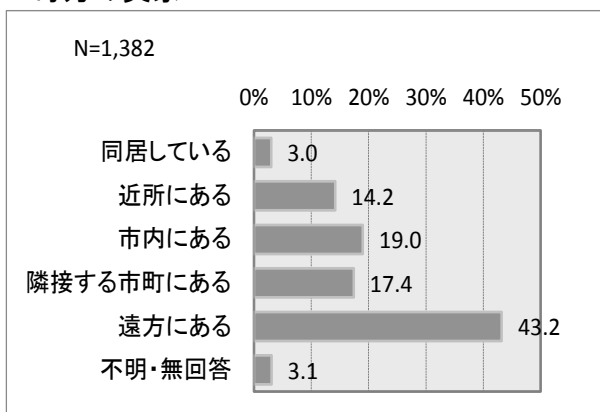
福祉保健各ブロック内学区	
志賀	小松・木戸・和邇・小野
北部	葛川・伊香立・真野・真野北 堅田・仰木・仰木の里
中北部	雄琴・日吉台・坂本・下阪本・唐崎
中部	滋賀・山中比叡平・藤尾・長等 逢坂・中央
中南部	平野・膳所・富士見・晴嵐
南部	石山・南郷・大石・田上
東部	上田上・青山・瀬田・瀬田南 瀬田東・瀬田北

## (6) 現在の住まいと実家との距離

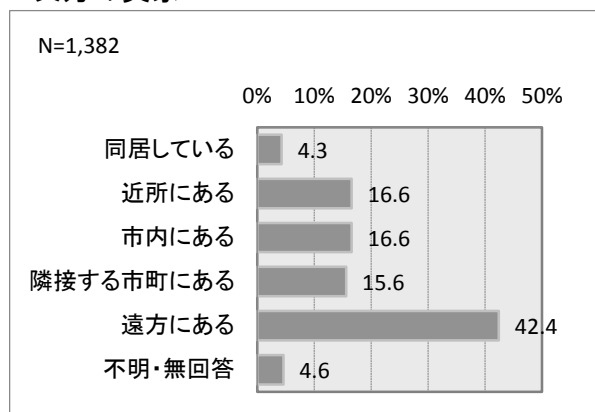
現在の住まいと実家との距離について、母方・父方の実家別にみると、ともに「遠方にある」が約4割で最も高くなっています。

母方・父方どちらかの実家と現在の住まいとの距離（「父母の実家（統合）」）についてみると、「近所にある」が26.8%と最も高くなっています。また、「隣接する市町にある」と「遠方にある」を合わせた割合は40.9%となっています。

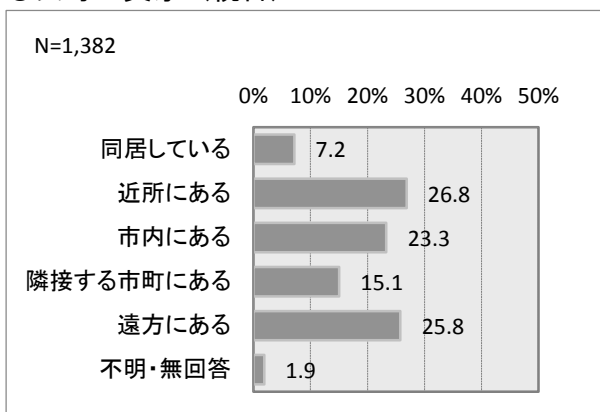
### 母方の実家



### 父方の実家



### ◎父母の実家（統合）

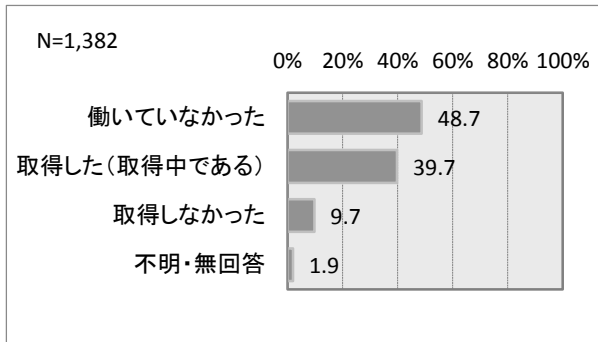


N=1,382		父方の実家						合計
		同居	近所	市内	隣接市町	遠方	不明無回答	
母 方 の 実 家	同居	2	4	6	6	9	15	42
	近所	3	47	32	28	81	5	196
	市内	13	42	77	46	80	5	263
	隣接市町	12	51	39	67	66	6	241
	遠方	22	80	72	68	349	6	597
	不明無回答	7	5	3	1	1	26	43
	合計	59	229	229	216	586	63	1,382

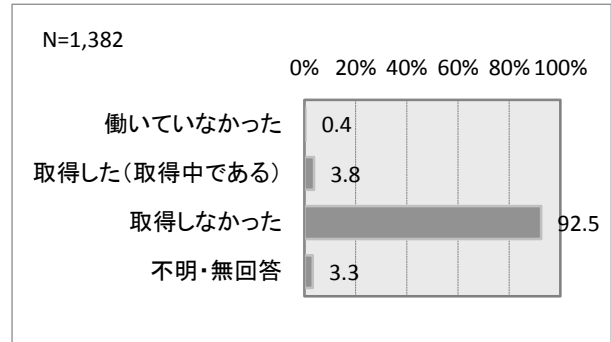
(7) 宛名のお子さんが生まれた時の育児休業（産前・産後休暇を含む）の取得状況

宛名のお子さんが生まれた時の育児休業の取得状況についてみると、母親は「働いていなかった」が48.7%と最も高く、次いで「取得した（取得中である）」が39.7%となっています。また、父親は「取得しなかった」が92.5%となっています。

(1) 母親



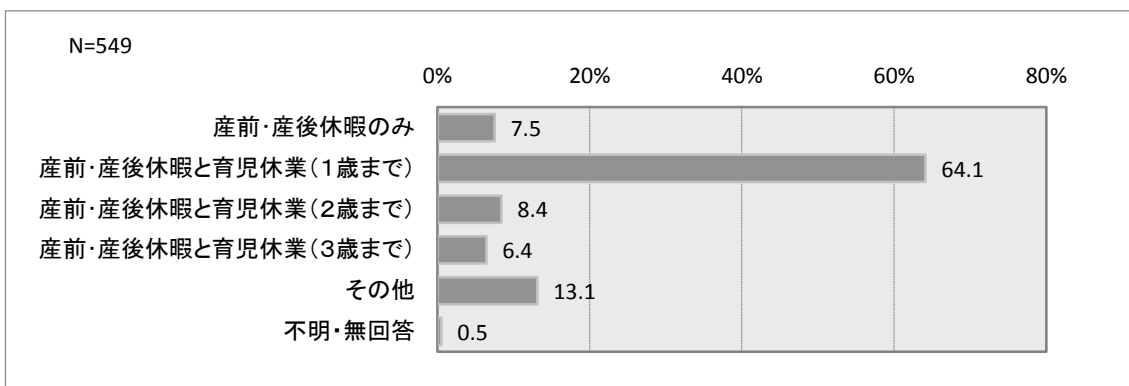
(2) 父親



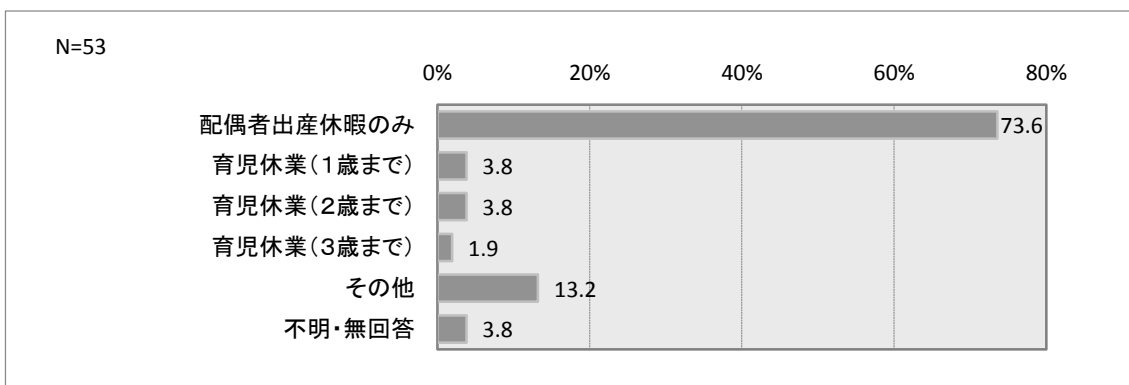
(7-1) 育児休業を取得した（取得中である）した方の取得期間または取得予定期間

育児休業の取得期間または取得予定期間についてみると、母親は「産前・産後休暇と育児休業（1歳まで）」が64.1%、父親は「配偶者出産休暇のみ」が73.6%とそれぞれ最も高くなっています。

(1) 母親



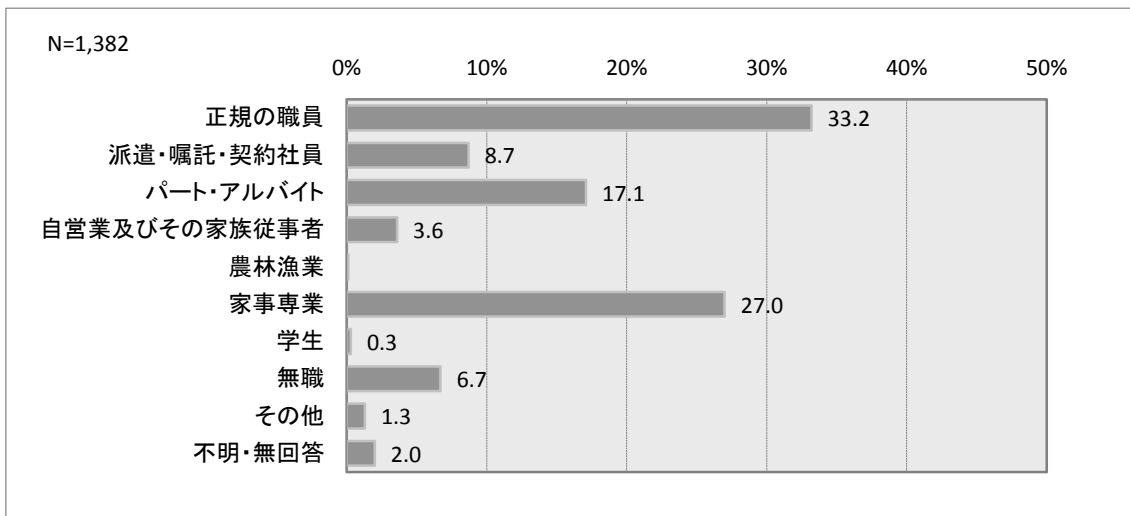
(2) 父親





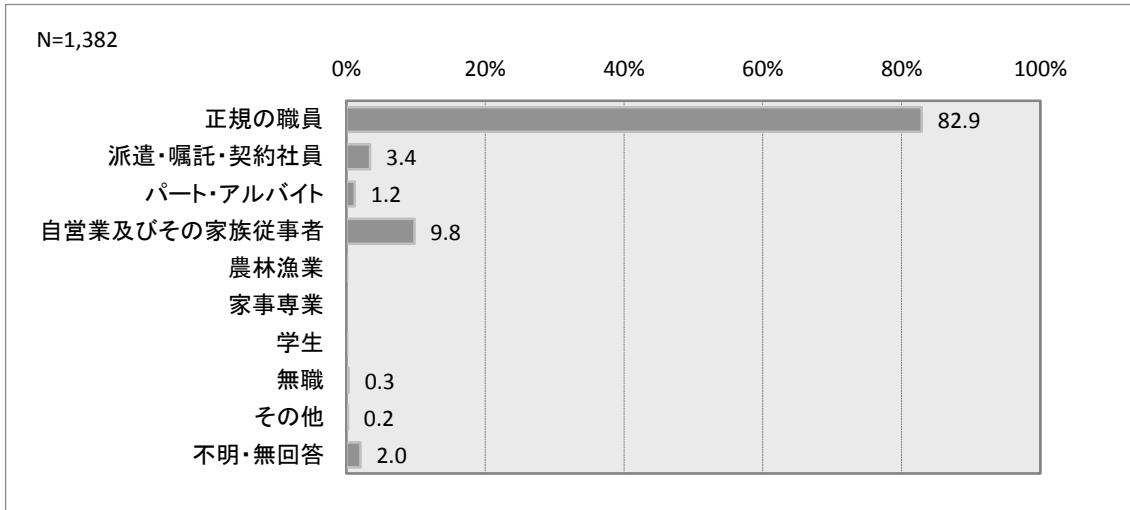
(8) 平成 25 年の母親（出産前）の就労状況

平成 25 年の母親（出産前）の就労状況についてみると、「正規の職員」が 33.2%と最も高く、次いで「家事専業」が 27.0%、「パート・アルバイト」が 17.1%となっています。



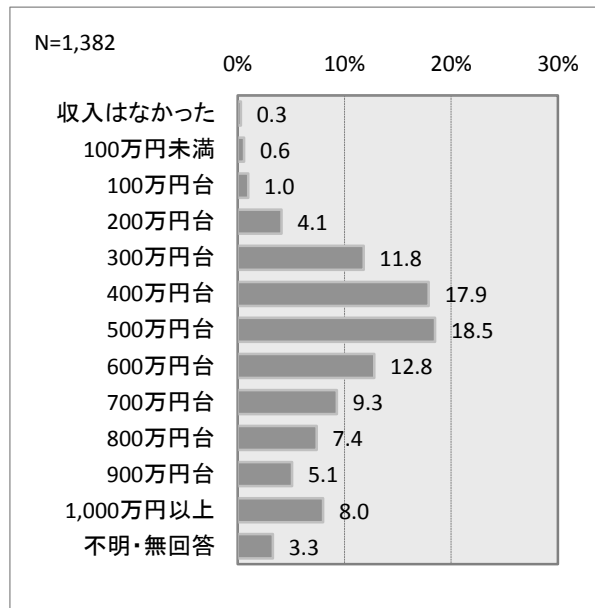
(9) 平成 25 年の父親の就労状況

平成 25 年の父親の就労状況についてみると、「正規の職員」が 82.9%と多数を占めており、次いで「自営業及びその家族従事者」が 9.8%となっています。



(10) 宛名のお子さんが生まれた時の父親と母親の年収合計

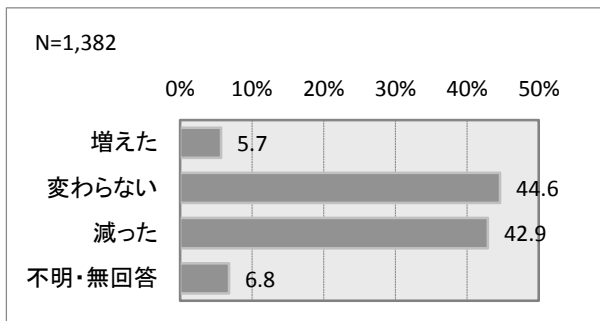
宛名のお子さんが生まれた時の父親と母親の年収合計についてみると、「500万円台」が18.5%と最も高く、次いで「400万円台」が17.9%、「600万円台」が12.8%となっています。



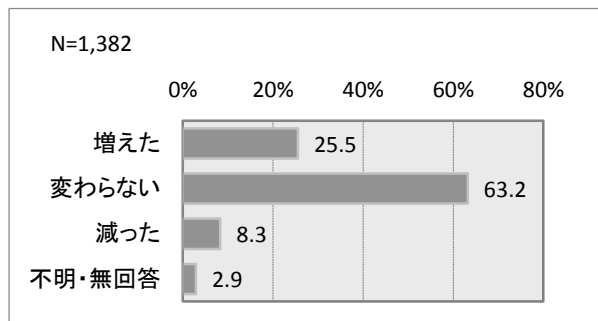
(10-1) 出産前と出産後の、父母のそれぞれの年収の変化

出産前と出産後の父母の年収の変化についてみると、父母ともに「変わらない」が最も高くなっていますが、母親では「減った」が42.9%と、父親と比較して高くなっています。

(1) 母親



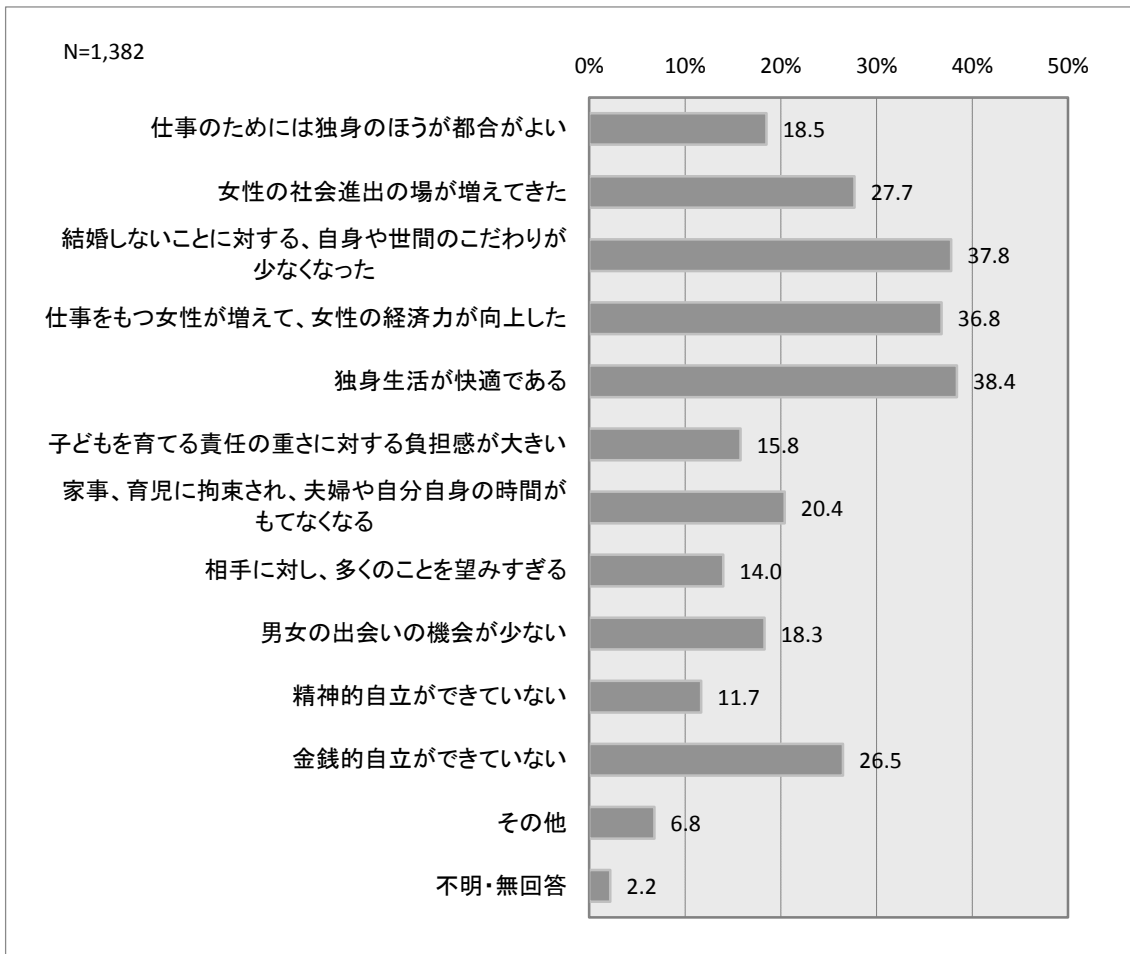
(2) 父親



## 2 結婚について

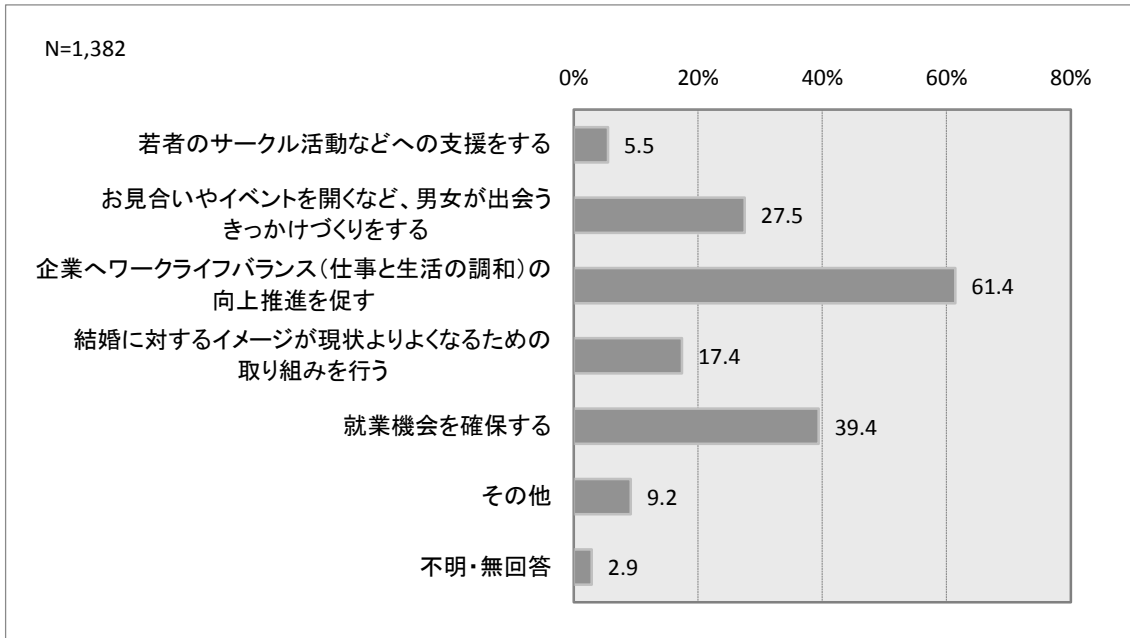
### (11) 日本の未婚化・晩婚化の理由

日本の未婚化・晩婚化の理由についてうかがうと、「独身生活が快適である」が38.4%と最も高く、次いで「結婚しないことに対する、自身や世間のこだわりが少なくなった」が37.8%。「仕事をもつ女性が増えて、女性の経済力が向上した」が36.8%となっています。



(12) 行政が結婚を支援するために必要な取り組み

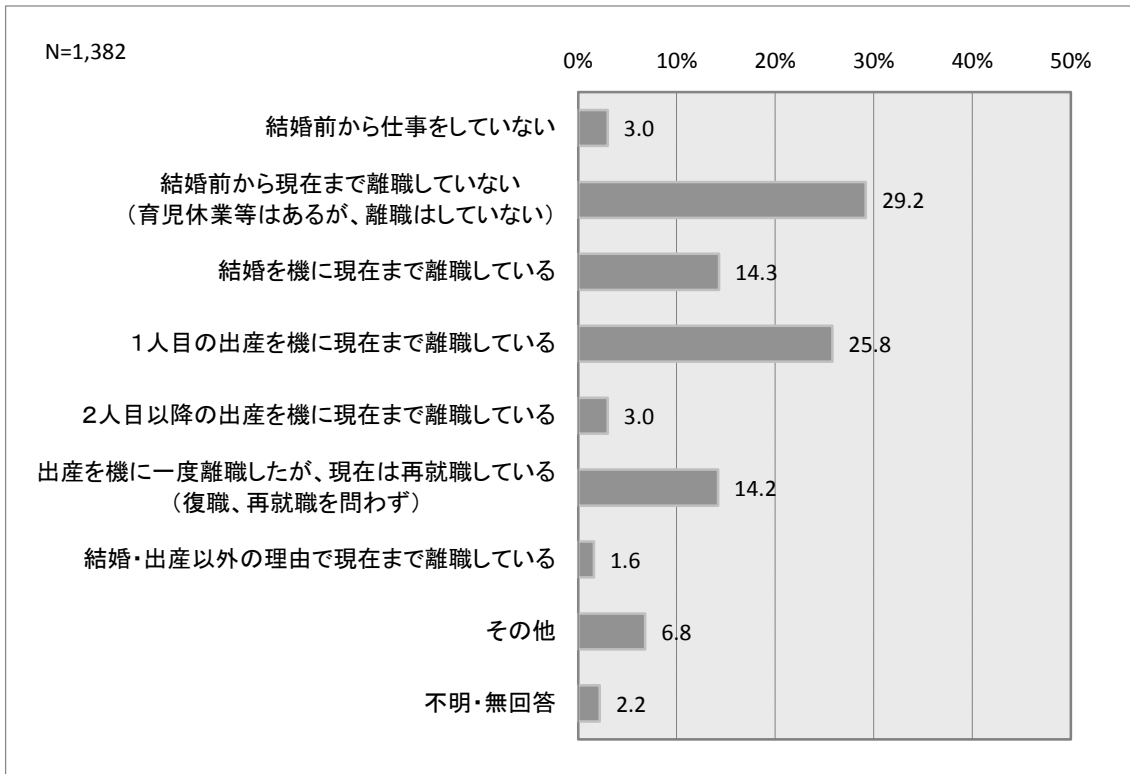
行政が結婚を支援するために必要な取り組みについてうかがうと、「企業へワークライフバランス（仕事と生活の調和）の向上推進を促す」が61.4%と最も高く、次いで「就業機会を確保する」が39.4%、「お見合いやイベントを開くなど、男女が出会うきっかけづくりをする」が27.5%となっています。



### 3 仕事と子育ての両立について

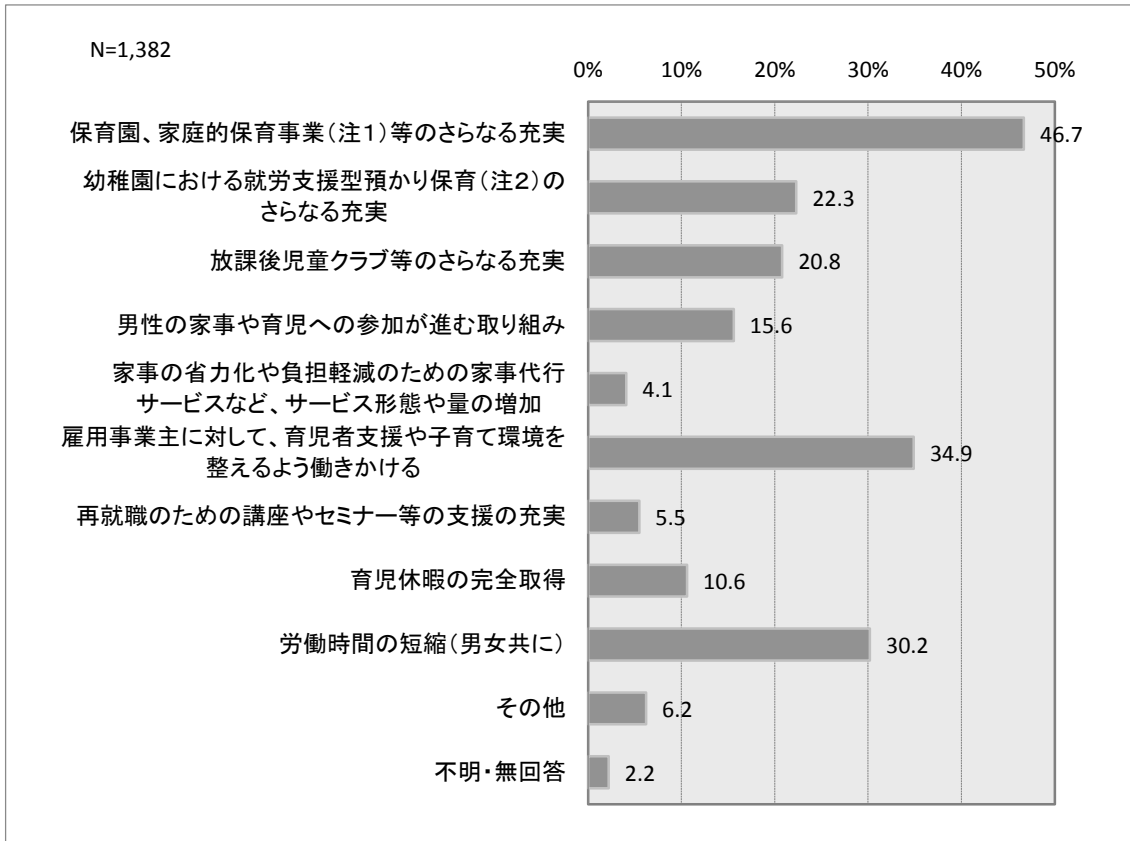
#### (13) 母親の結婚・出産後の就業状況

母親の結婚・出産後の就業状況についてみると、「結婚前から現在まで離職していない（育児休業等はあるが、離職はしていない）」が29.2%と最も高く、次いで「1人目の出産を機に現在まで離職している」が25.8%、「出産を機に一度離職したが、現在は再就職している（復職、再就職を問わず）」が14.2%となっています。



(14) 働く女性が結婚・出産後も働き続けるために必要なこと

働く女性が結婚・出産後も働き続けるために必要なことについてうかがうと、「保育園、家庭的保育事業（注1）等のさらなる充実」が46.7%と最も高く、次いで「雇用事業主に対して、育児者支援や子育て環境を整えるよう働きかける」が34.9%、「労働時間の短縮（男女共に）」が30.2%となっています。

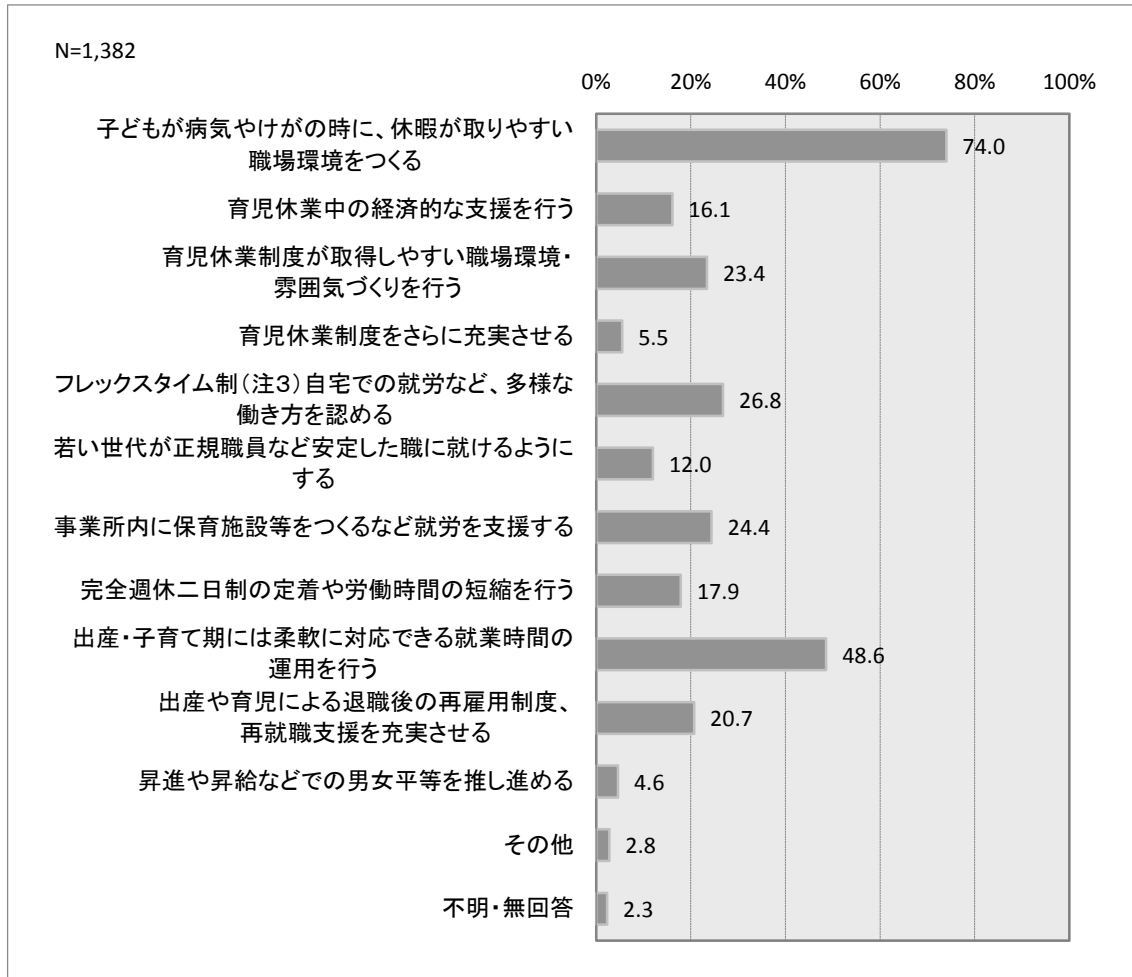


注1：3歳未満の乳幼児（利用定員5人以下）を家庭的保育者がその居宅またはその他の場所で保育する事業

注2：保護者と幼児双方の生活に視点をあて、就労しながら幼稚園に通わせたい等の保護者のニーズに応え、幼稚園における教育時間以外の時間帯に実施している預かり保育事業

(15) 働く保護者が仕事と子育てを両立するために、企業に期待すること

働く保護者が仕事と子育てを両立するために、企業に期待することについてうかがうと、「子どもが病気やけがの時に、休暇が取りやすい職場環境をつくる」が74.0%と最も高く、次いで「出産・子育て期には柔軟に対応できる就業時間の運用を行う」が48.6%、「フレックスタイム制（注3）自宅での就労など、多様な働き方を認める」が26.8%となっています。



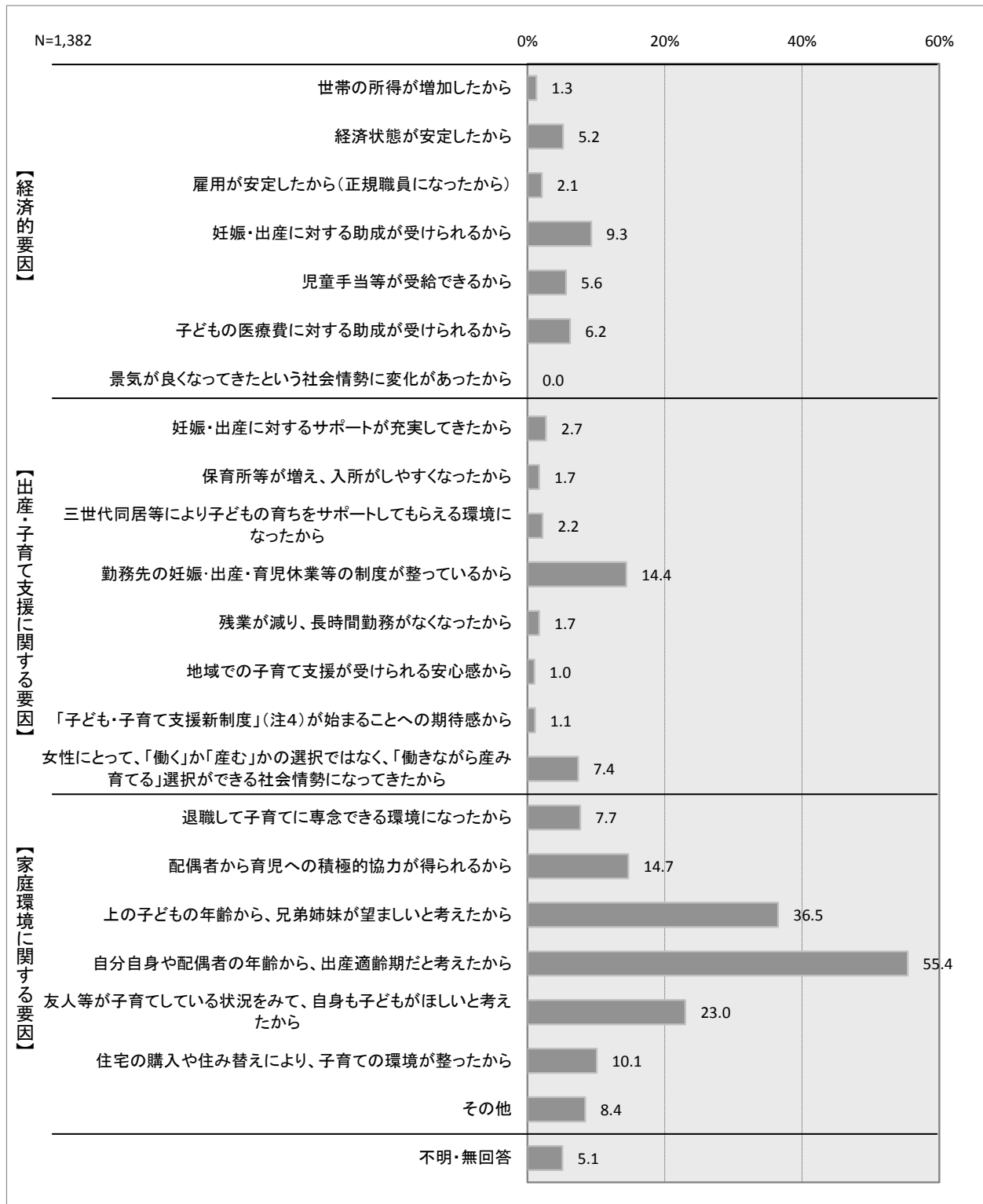
注3：フレックスタイム制とは、一定期間の総労働時間を労働者自身が始業と終業時間を決定して働く制度

## 4 出産しようと思った理由について

### (16) 回答者の出産に影響を与えた要因

回答者の出産に影響を与えた要因についてみると、すべての要因の中で最も高いのは「自分自身や配偶者の年齢から、出産適齢期だと考えたから」で、55.4%となっています。また、次いで「上の子どもの年齢から、兄弟姉妹が望ましいと考えたから」が36.5%、「友人等が子育てしている状況を見て、自身も子どもがほしいと考えたから」が23.0%となるなど、【家庭環境に関する要因】によって出産しようと思った回答者が多く、周囲の子育て家庭に影響を受けていることがうかがえます。



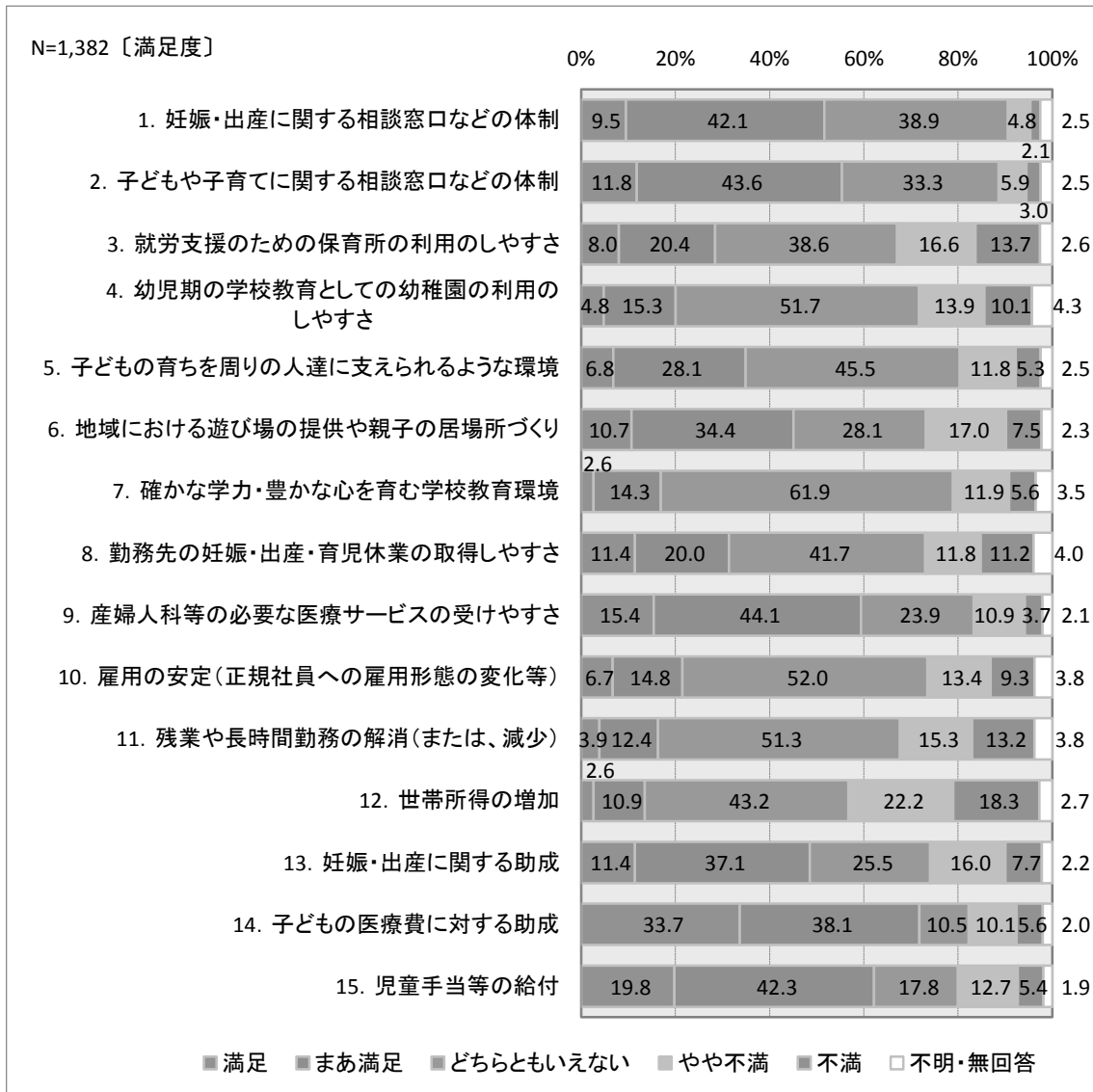


注4：「子どもの最善の利益」が実現される社会をめざすとの考えを基本に、制度・財源を一元化して新しい仕組みを構築し、乳幼児期の学校教育・保育の一体的な提供、保育の量的拡充、家庭における養育支援等を総合的に推進していく、平成27年度からスタートした制度

(17) 大津市の出産や子育てに関わる環境についての「満足度」・「重要度」・ここ数年の「改善度」

【満足感を得ていますか】

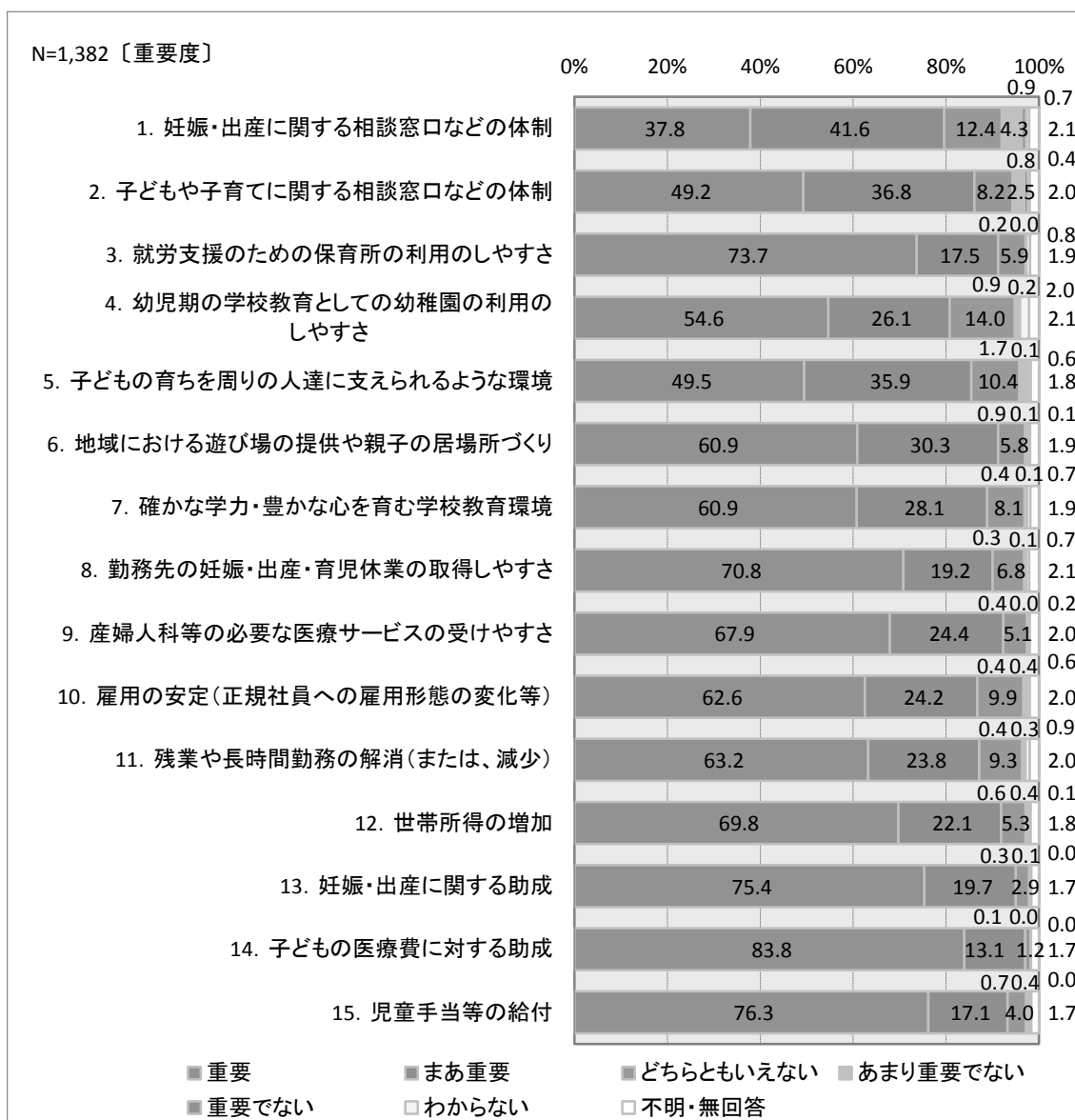
大津市のお産や子育てに関わる環境についての「満足度」をみると、「満足」の割合について、[14. 子どもの医療費に対する助成]が33.7%、「15.児童手当等の給付」が19.8%と、他の選択肢と比較して高くなっています。



【出産や子育てへの支援として重要だと思いますか】

大津市のお産や子育てに関わる環境についての「重要度」をみると、[1.妊娠・出産に関する相談窓口などの体制]を除くすべての選択肢で「重要」の割合が最も高くなっています。

中でも、満足度が比較的高い[14.子どもの医療費に対する助成][15.児童手当等の給付]や、[13.妊娠・出産に関する助成][3.就労支援のための保育所の利用のしやすさ]の重要度が他の選択肢と比較して高くなっています。



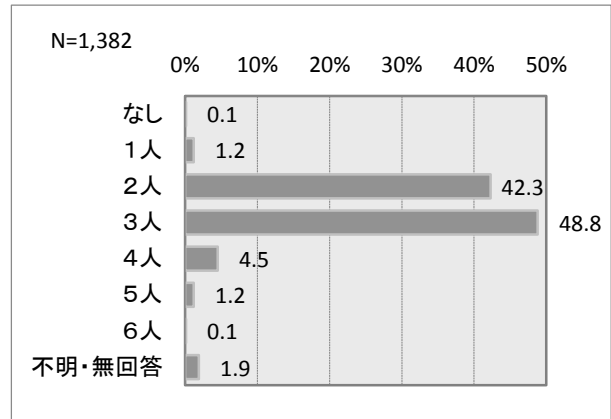
【ここ数年で改善されていると思いますか】

大津市の出産や子育てに関わる環境についての「改善度」をみると、[3.就労支援のための保育所の利用のしやすさ] [14.子どもの医療費に対する助成] [13.妊娠・出産に関する助成] の「改善されていると思う」はそれぞれ2割を超えており、一定の改善がみられることがうかがえます。



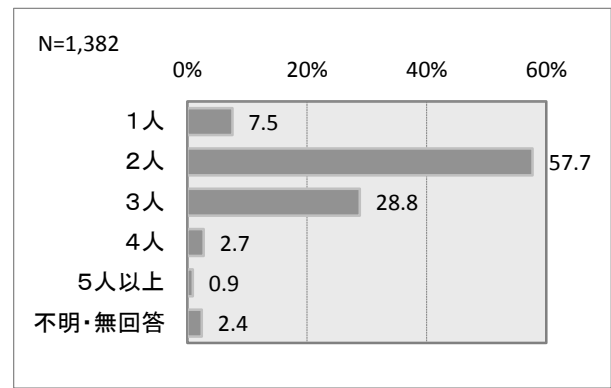
(18) 理想なお子さんの人数

理想なお子さんの人数についてみると、「3人」が48.8%と最も高く、次いで「2人」が42.3%となっています。



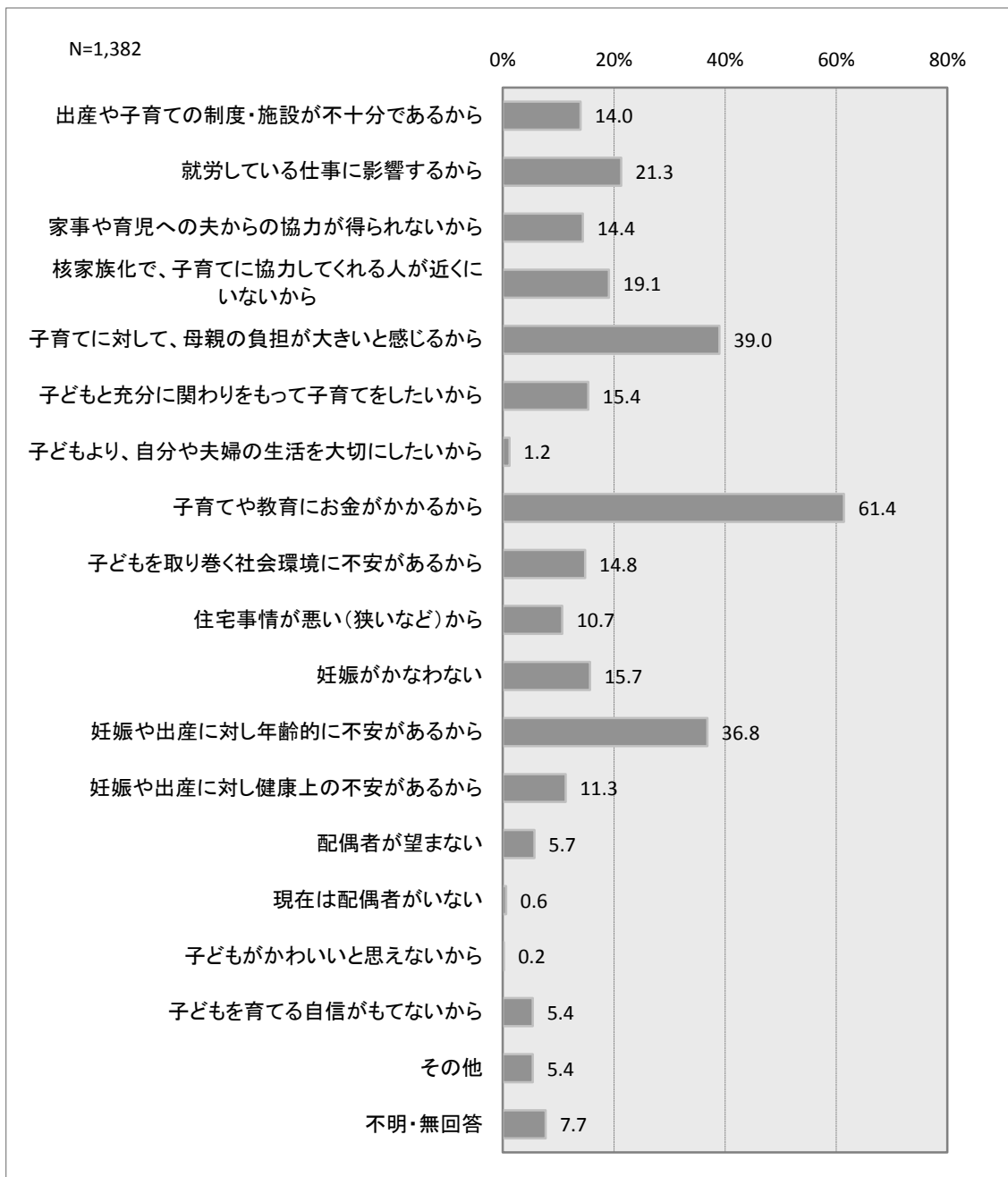
(19) 最終的に予定するお子さんの人数

最終的に予定するお子さんの人数についてみると、「2人」が57.7%と最も高く、次いで「3人」が28.8%となるなど、理想なお子さんの人数との差がみられます。



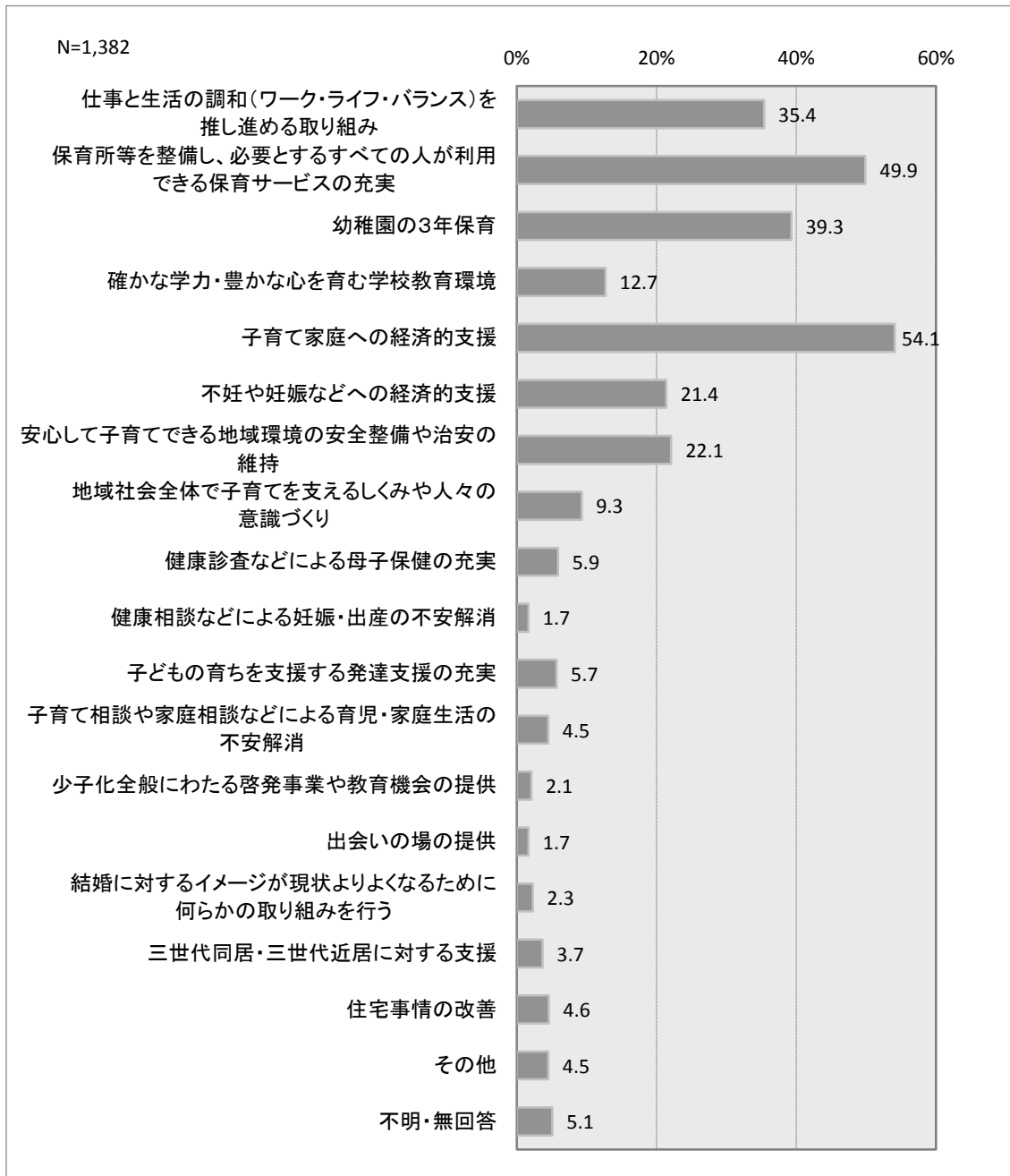
(20) 今後予定するお子さんについて、結果的に実現しなかった場合に可能性が高い原因

理想的小子さんの人数と最終的に予定するお子さんの人数の間に差がみられる中で、今後予定するお子さんについて、結果的に実現しなかった場合に可能性が高い原因についてうかがうと、「子育てや教育にお金がかかるから」が61.4%と最も高く、次いで「子育てに対して、母親の負担が大きいと感じるから」が39.0%、「妊娠や出産に対し年齢的に不安があるから」が36.8%となっています。



(21) 今後予定するお子さんの人数を増やし、理想とする人数のお子さんを安心して産むための行政が取り組むべき施策

今後予定するお子さんの人数を増やし、理想とする人数のお子さんを安心して産むための行政が取り組むべき施策についてうかがうと、「子育て家庭への経済的支援」が54.1%と最も高く、次いで「保育所等を整備し、必要とするすべての人が利用できる保育サービスの充実」が49.9%、「幼稚園の3年保育」が39.3%となっています。

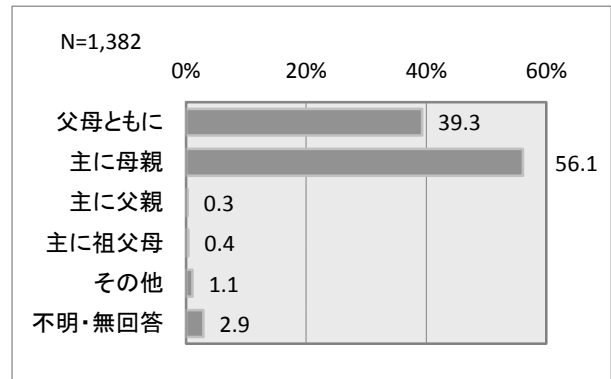


## 5 お子さんの育ちをめぐる環境について

### (22) 子育てを主に行っている方

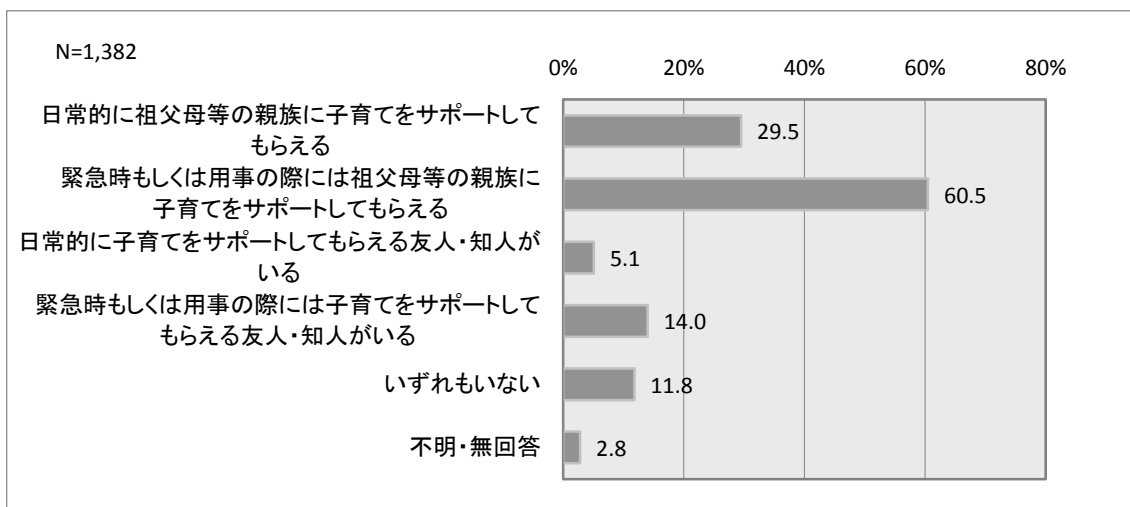
子育てを主に行っている方についてみると、「主に母親」が56.1%と最も高く、「父母ともに」(39.3%)を上回っています。

「(1) 性別」でもみたように、子育てについては主に母親(女性)が未だに主体であることがうかがえます。



### (23) 日頃、子育てをサポートしてもらえる祖父母等の親族や友人・知人の有無

日頃、子育てをサポートしてもらえる祖父母等の親族や友人・知人の有無についてみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に子育てをサポートしてもらえる」が60.5%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族に子育てをサポートしてもらえる」が29.5%となっています。

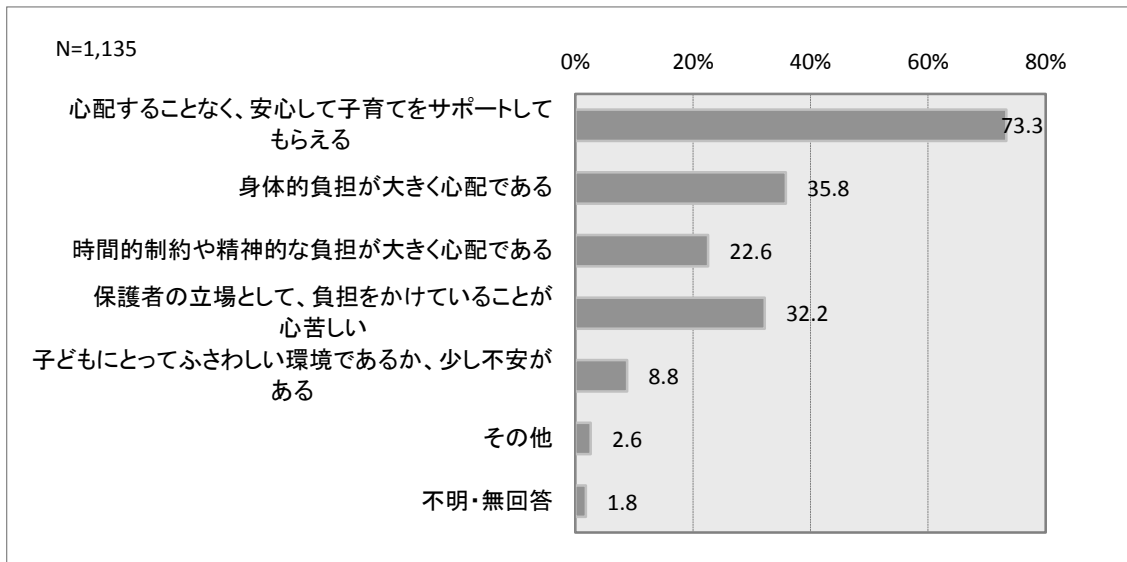




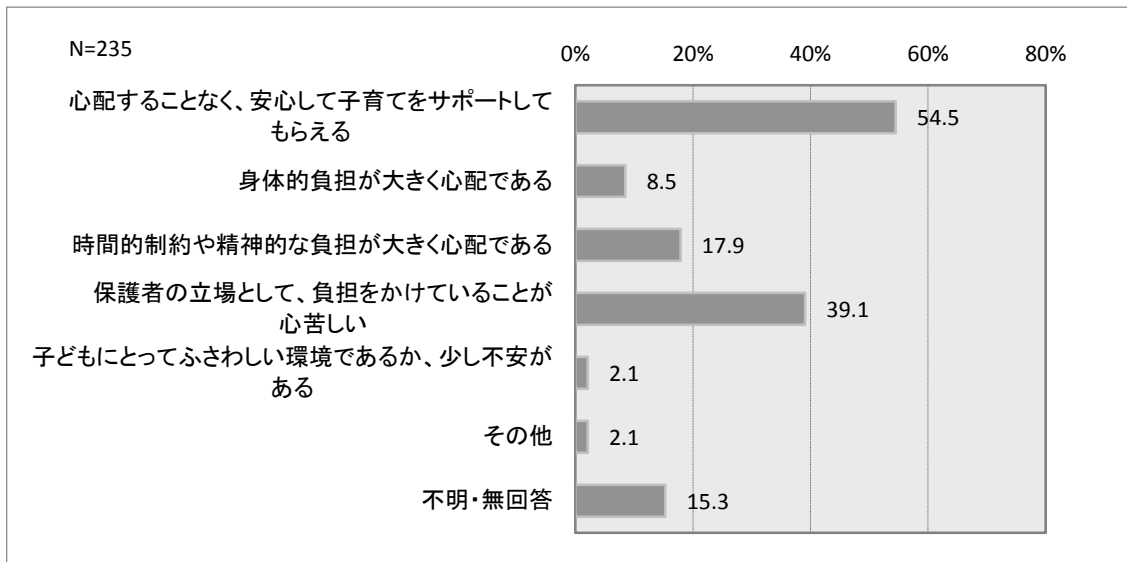
(23-1) サポートしてもらっている状況

親族や友人・知人にサポートしてもらっている状況についてどう思うかをそれぞれうかがうと、親族と友人・知人ともに「心配することなく、安心して子育てをサポートしてもらえる」が最も高く、特に親族では73.3%と、友人・知人の割合(54.5%)より高くなっています。

(1) 親 族

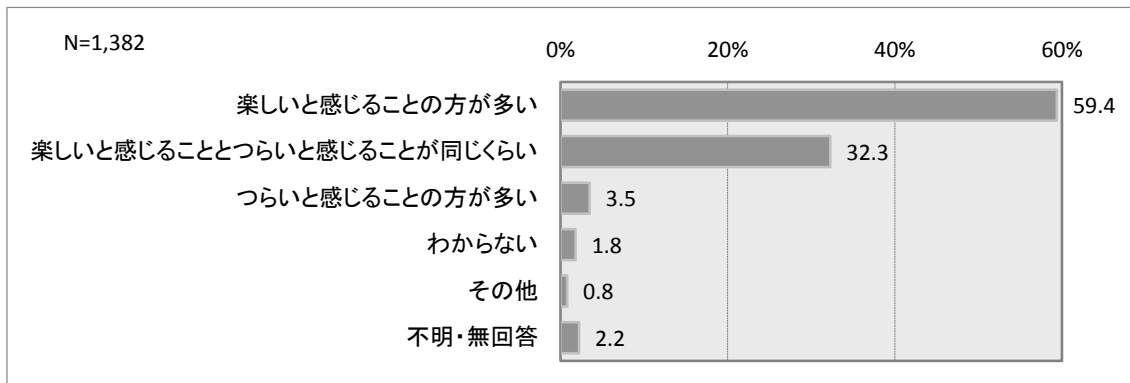


(2) 友人・知人



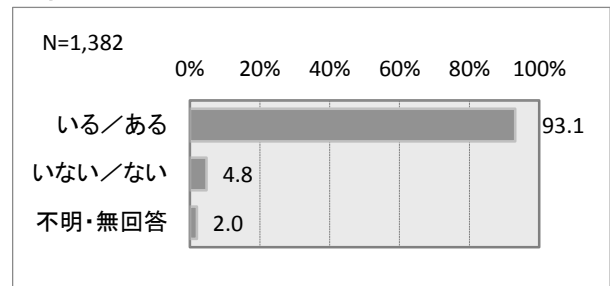
#### (24) 子育てについて感じる事

子育てについて感じる事についてみると、「楽しいと感じることの方が多い」が59.4%と最も高く、次いで「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」が32.3%となっています。



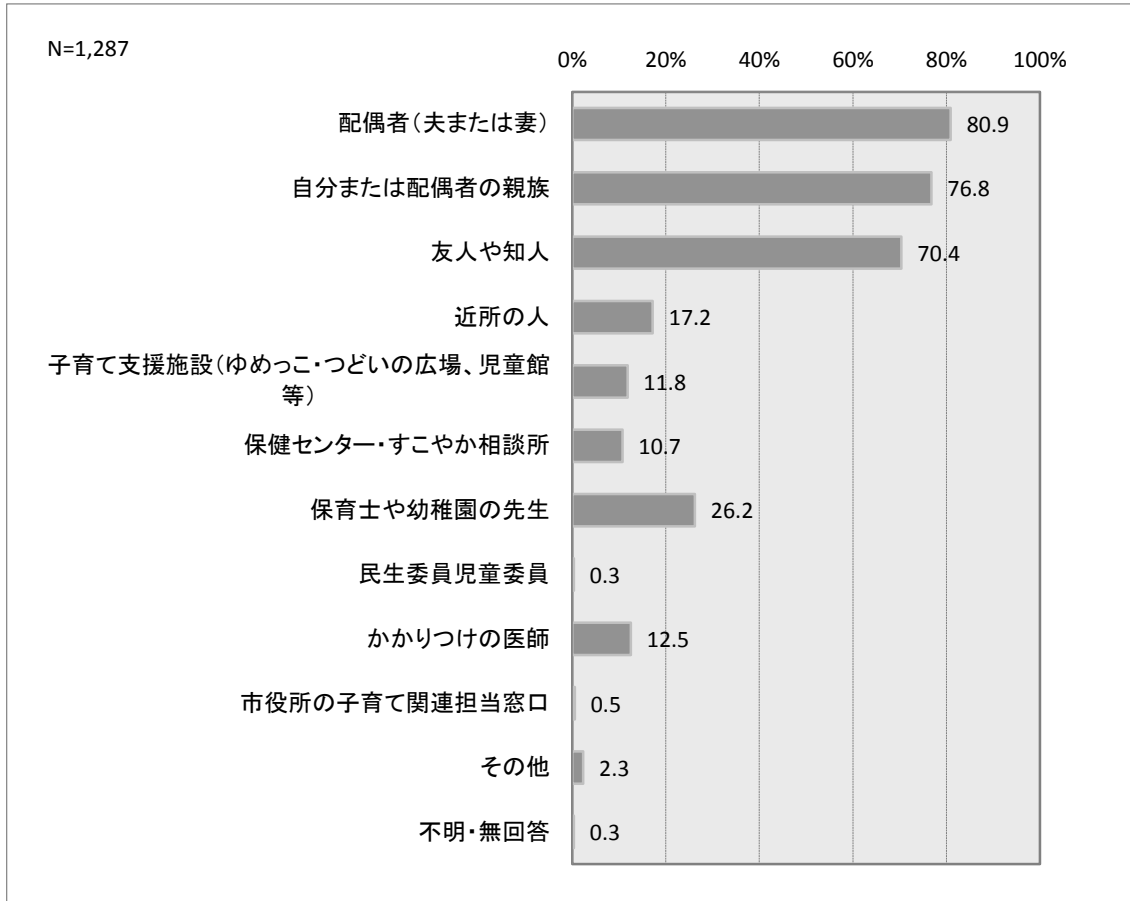
#### (25) 子育てをする上で気軽に相談できる人や場所

子育てをする上で気軽に相談できる人や場所の有無についてみると、「いる／ある」が93.1%と、9割以上の回答者に相談先がいる（ある）ことがわかります。



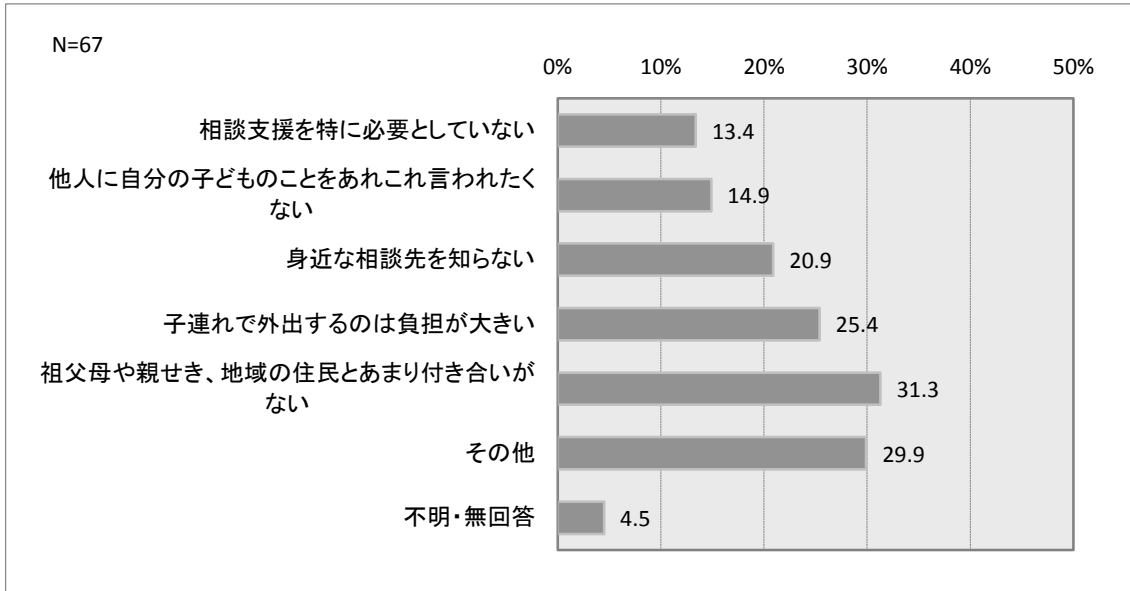
(25-1) 相談先

相談先が「いる／ある」回答者の相談先についてみると、「配偶者（夫または妻）」が 80.9%と最も高く、次いで「自分または配偶者の親族」が 76.8%、「友人や知人」が 70.4%となっています。



(25-2) 気軽に相談できる人や場所がない理由

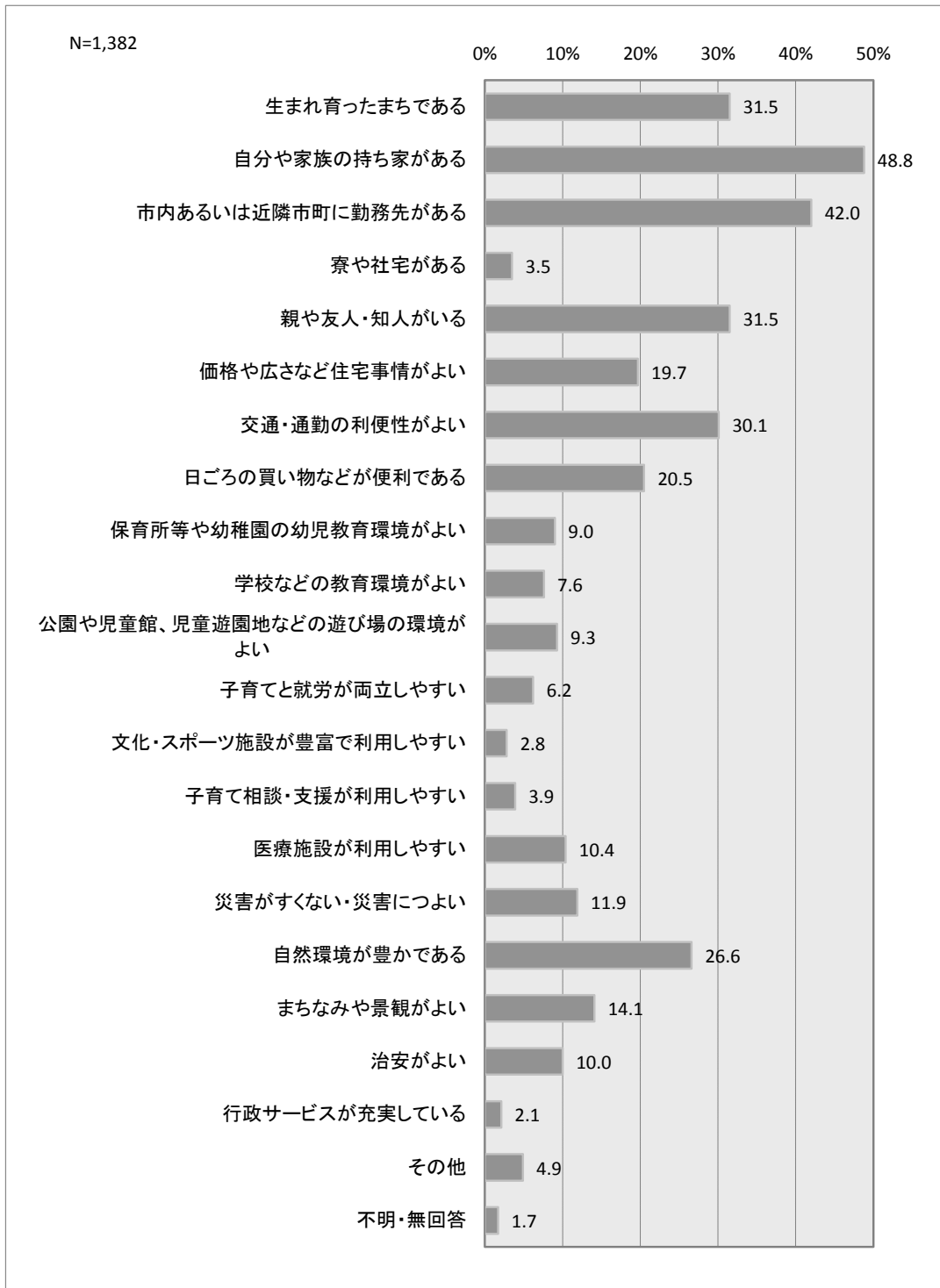
相談先が「いない／ない」回答者の、気軽に相談できる人や場所がない理由についてみると、「祖父母や親せき、地域の住民とあまり付き合いがない」が31.3%と最も高く、次いで「その他」が29.9%、「子連れで外出するのは負担が大きい」が25.4%となっています。



## 6 大津市での子育てについて

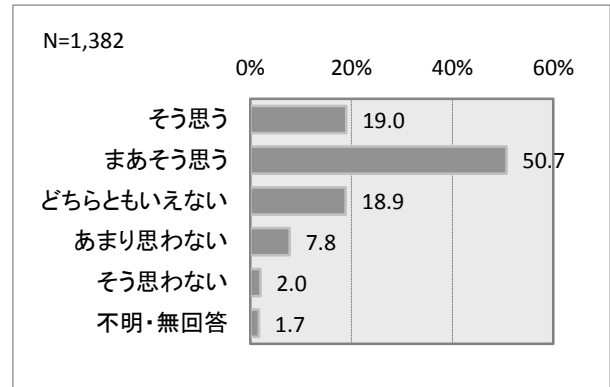
### (26) 大津市を居住地として選んでいる理由

大津市を居住地として選んでいる理由についてみると、「自分や家族の持ち家がある」が48.8%と最も高く、次いで「市内あるいは近隣市町に勤務先がある」が42.0%、「生まれ育ったまちである」「親や友人・知人がいる」がそれぞれ31.5%、「交通・通勤の利便性がよい」が30.1%となっており、地元であることと通勤に便利であることが大きな要因になっていることがうかがえます。



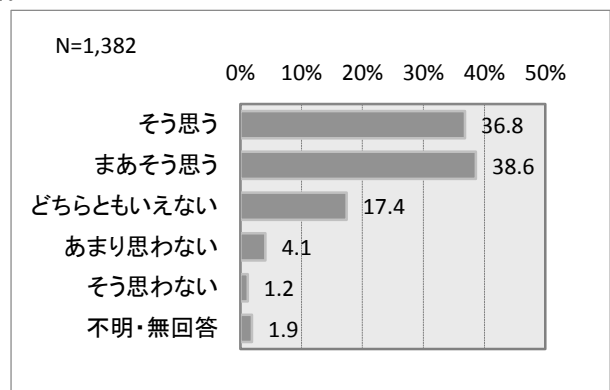
(27) 総合的にみて、大津市は子どもの育ちや子育てに良い環境だと思うか

大津市は子どもの育ちや子育てに良い環境だと思うかについてうかがうと、「まあそう思う」が 50.7%と最も高く、「思う」と「まあそう思う」を合わせて約7割となっています。



(28) 今後も大津市で子育てをしたいと思うか

今後も大津市で子育てをしたいと思うかについてうかがうと、「まあそう思う」が 38.6%と最も高く、「思う」と「まあそう思う」を合わせて約8割となっています。



### 3 自由記述（内容別分類表）

結婚、出産、子育て、少子化、人口問題などについて、充実してほしいと感じている施策やご意見などがありましたら、自由にご記入ください。

内 容	件数
幼稚園の3年保育	142
医療費について（助成・無料、ほか）	95
公園について	65
保育料について	62
保育園の入園	46
給食について	44
教育・保育施設の増設、整備、充実	44
遊び場の確保	43
経済的支援	41
子育て支援	39
児童クラブについて	39
生活環境整備	39
健診・検診	33
病児・病後児保育事業	27
雇用について	27
情報・広報の充実	24
教育環境	24
不妊治療の助成	23
待機児童	23
職場環境	23
児童手当	22
医療の充実	22
相談について	19
少子化対策	19
アンケート	18
保育園等の一時預かり	17
保育環境	16
保育サービス	16
交流について	15
いじめ問題・対策	13
幼稚園の預かり保育	12
児童館等について	12
通園、通学	12

内 容	件数
行政施策について	11
学力問題	11
保育士について	11
交通機関の充実、整備	10
男性の育児休業、子育て参加	10
休日保育事業	10
婚活支援	10
地域社会環境	10
その他の一時預かり事業	9
企業への働きかけ	9
障害児支援	8
教職員について	8
防犯対策	8
子育て支援施設	7
短時間勤務制度	7
イベント・行事・講座等の充実	7
就労支援型預かり保育	7
行政サービス	7
駐車場	6
幼稚園について	6
自然環境	6
母子手帳、マタニティマーク	5
ひとり親家庭支援	5
仕事と子育ての両立	5
社会教育	5
教育費	5
PTA 活動について	4
福祉医療費受給券	4
育児休業制度	4
将来への不安	4
子育て論	4
交通マナー・交通ルール	3
幼保一体化	2
高齢者について	2
空き家活用	2
夫婦別姓	2
その他	53